

2022年度（令和4年度）
第2回 福山市地球温暖化対策協議会 意見概要

1. 日時等

日 時 : 2022年（令和4年）11月18日（金）
14:00～16:00
場 所 : 福山市役所本庁舎6階 60会議室

2. 出席委員

仲嶋一 会長，澤田結基 副会長，市川琢己 委員，今村徹 委員，岡崎修一 委員，神原昌弘 委員，
三藤淳一 委員

3. 欠席委員

岩戸志多 委員，大平安義 委員，佐々木昭彦 委員，住田典子 委員，山田康文 委員，渡邊哲也 委員

4. 第二次福山市環境基本計画の改定について

- (1) 福山市地球温暖化対策協議会の開催スケジュール
- (2) 温室効果ガス排出量の推計値及び削減目標
- (3) 再生可能エネルギー導入ポテンシャル
- (4) アンケートの実施結果
- (5) 福山市脱炭素社会の将来像
- (6) 2050年カーボンニュートラルの実現に向けた施策（案）

5. 要旨

- 会議は公開で行われた。
- 事務局から，福山市地球温暖化対策協議会の開催スケジュールについて説明を行った。
- 事務局から，温室効果ガス排出量の推計値及び削減目標について説明を行い，質疑応答を行った。
- 事務局から，再生可能エネルギー導入ポテンシャルについて説明を行い，質疑応答を行った。
- 事務局から，アンケートの実施結果及び福山市脱炭素社会の将来像について説明を行い，質疑応答を行った。
- 事務局から，2050年カーボンニュートラルの実現に向けた施策（案）について説明を行った。
- 事務局から，二酸化炭素排出実質ゼロ表明について説明を行い，質疑応答を行った。

(意見の概要)

温室効果ガス排出量の推計値及び削減目標

○温室効果ガスの将来推計について、推計に用いた手法の根拠を示した方が良いのではないか。

⇒今後、根拠を示すようにする。

○環境省のガイドラインに、いくつか目標の策定方法の事例を記してあるが、福山市に関しては、国が示す部門ごとの削減目標を用いて算出した目標で取組を考えていくということで良いか。

⇒2013年度（平成25年度）の各部門の排出量に対して、国が示した部門ごとの削減率を乗じた数値を削減目標として考えている。

○産業構造は、自治体によって異なるため、産業ごとに細分化して評価を行った方が取組のポイントが分かりやすいのではないか。細分化して評価することは難しいのか。

⇒細分化して評価することは困難だが、目標達成に向けた施策を部門ごとに整理する方針としている。

再生可能エネルギー導入ポテンシャル

○太陽光の導入ポテンシャルについて、事業の実現可能性（事業性）を考慮すると、ポテンシャルが目減りすると思うが、どの程度のポテンシャルを見込んでいるのか。

⇒事業性を考慮した導入ポテンシャルの把握はできていない。事業性については、個人や事業者の個々の判断となるため、全体を把握することまでは考えていない。ただし、事業性を考慮した太陽光発電の導入ポテンシャルについては、現在、環境省が算定を行っているため、環境省の動向も踏まえながら可能な範囲で把握していきたいと考えている。

○太陽熱の導入ポテンシャルに関し、屋上に吸熱パネルを置くことが考えられるが、太陽光パネルと干渉しており、面積の二重換算になっていないか。

⇒電気と熱のポテンシャルの重複は考慮されていないため、ポテンシャルの総量としては減少する。

アンケートの実施結果及び福山市脱炭素社会の将来像

○福山市脱炭素社会の将来像の中で、「コンパクト・プラス・ネットワークの推進によるウォークブルな空間形成、車中心から人中心の空間に転換」とあるが、根拠や他の施策などの背景があるのか。

⇒「コンパクト・プラス・ネットワークの推進」は、現行計画の個別施策として位置付けており、コンパクト・プラス・ネットワークの考え方は、福山市の立地適正化計画の中に記載している。また、福山駅周辺をウォークブルエリアとして指定しており、シェアサイクルやグリーンスローモビリティなどを複合的に掛け合わせた取組ができるのではないかと考えている。

○次世代エネルギーとして水素や燃料アンモニアがある。メタネーションで二酸化炭素からメタンガスを合成することも注目されているが、何か取組があるのか。

⇒メタネーションの取組は、ガス業界も取り組んでおり、促進していく。

ゼロカーボンシティ宣言について

○2030年度（令和12年度）までの削減目標よりも踏み込んだ目標を設定することになると思うが、具体的にどの程度の削減量を達成すれば排出量がゼロになるのか。

⇒福山市の温室効果ガス排出量は、2018年度（平成30年度）で約2,800万 t-CO₂である。カーボンニュートラル達成に当たっては、吸収量と合わせて実質ゼロにすることが必要となっているが、福山市は森林が少ないため、CCUSなど今後の技術革新が必要と考えている。

○福山市の産業構造を考えると、カーボンニュートラルの達成は厳しいと思う。福山市でカーボンニュートラルをめざすのか、広島県や国全体としての方向性に賛同していくのか、宣言の考え方について議論する必要があると考える。

⇒脱炭素に向けた意識の醸成を行うためには、行政が率先して実施し、市民・事業者への動機付けを行うことが重要だと考えている。ゼロカーボンシティの表明は、動機付けのための一つのツールとして活用できるのではないかと考えている。

○ゼロカーボンシティ宣言を行うことは、自治体として、ゼロカーボンシティに向けた意気込みや民間事業者、市民に対する周知啓発といった意味合いが大きく、自治体の意思表示として宣言することも有意義である。

以 上

※CCUSとは…「Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage」の略。

発電所や化学工場などから排出されたCO₂を、他の気体から分離して集め、地中深くに貯留したCO₂を利用する取組のこと。